

2

Annual Report 2011

診療科

外来診療担当表

循環器内科

呼吸器内科

神経内科

内分泌内科

外科

脳神経外科

心臓血管外科

小児科

泌尿器科

皮膚科

放射線科

耳鼻咽喉科

麻酔科

病理部

糖尿病センター

リウマチ・膠原病センター

人工透析センター

認知症疾患医療センター

消化器内視鏡センター

健康増進センター

学会発表実績

外来診療担当表

2 診療科

		月		火		水		木		金		
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内科	呼吸器	小林 奨		大島 一浩				小林 奨				
	内分泌							安部 恵代 (非再)	大財 茂 (非)	藤山 薫 (非)		
	骨代謝										藤山 薫 (非)	
	腎・透析		浪江 智						浪江 智 (再)	林 和歌 (再)	林 和歌 (再)	
	神経科	新患	井手 芳彦				竹尾 剛		吉村 俊朗 (非)			
		再来	井手 芳彦 竹尾 剛		竹尾 剛				吉村 俊朗 (非)		竹尾 剛	
	リウマチ膠原病センター	新患	岩永 希		山崎 聡士 (非)		佐藤 浩信		寺田 馨		植木 幸孝	
		再来	植木 幸孝		山崎 聡士	山崎 聡士	植木 幸孝	寺田 馨	佐藤 浩信		寺田 馨	佐藤 浩信
			寺田 馨		岩永 希							
			一瀬 邦弘	一瀬 邦弘	佐藤 浩信		佐藤 浩信					岩永 希
糖尿病センター	新患	藤島圭一郎				原口 愛		原口 愛		松本 一成		
	再来	松本 一成		松本 一成 藤島圭一郎	原口 愛	藤島圭一郎	松本 一成	松本 一成 藤島圭一郎		原口 愛		
循環器内科	新患	木崎 嘉久		矢野 捷介 (非)		中尾功二郎		木崎 嘉久		矢野 捷介 (非)		
	再来	赤司 良平		中尾功二郎		木崎 嘉久		中尾功二郎		木崎 嘉久		
				高原 靖		赤司 良平						
	検査外来	(中尾功二郎)		(木崎 嘉久)		(高原 靖)		(赤司 良平)		(中尾功二郎)		
		(高原 靖)		(赤司 良平)				(高原 靖)		(赤司 良平)		
									(高原 靖)			
消化器内科	(消化管)	妹尾 健正		楠本浩一郎	富永 雅也 (再) 竹島 史直 (非隔週)	小田 英俊	磯本 一 (非隔週)	小田 英俊 妹尾 健正		山島 美緒		
	(肝胆膵)	草場麻里子		木下 昇		楠本浩一郎		妹尾 健正		木下 昇		
	内視鏡担当	楠本浩一郎		妹尾 健正		草場麻里子		楠本浩一郎		小田 英俊		
		小田 英俊		山島 美緒		木下 昇		山島 美緒		妹尾 健正		
		山島 美緒		尾崎 美砂		富永 雅也		木下 昇		尾崎 美砂		
尾崎 美砂							尾崎 美砂					
人工透析センター	林 和歌 浪江 智	林 和歌 浪江 智	浪江 智	浪江 智	林 和歌 浪江 智	林 和歌 浪江 智	浪江 智	浪江 智	林 和歌 浪江 智	林 和歌 浪江 智		
外科	新患	梶原 啓司	※	草場 隆史	※	碓 秀樹	※	久永 真	※	羽田野和彦	※	
		重政 有								佐々木伸文		
	再来	碓 秀樹		清水 輝久		菅村 洋治		清水 輝久		清水 輝久		
				菅村 洋治		梶原 啓司		重政 有		碓 秀樹		
(名誉顧問外来)	國崎 忠臣 (非)				國崎 忠臣 (非)							
脳神経外科	阪元政三郎	※	※	※	阪元政三郎	※	※	※	阪元政三郎	※		
	平田 陽子					衛藤 達				吉野慎一郎		

2012年3月31日現在

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
心臓血管外科	※	※	柴田隆一郎	※	※	※	柴田隆一郎	※	※	※
			橋本 亘 谷口真一郎				橋本 亘			
皮膚科	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※	山口 宣久	※
小児科	山田 克彦	循環器外来 (第2,第4週休診)	山田 克彦	乳幼児健診 予防接種	山田 克彦	心身症外来	アレルギー外来	アレルギー外来 (第4週休診)	山田 克彦	乳幼児健診
	犬塚 幹		犬塚 幹	神経外来 (第1週休診)	犬塚 幹		犬塚 幹	神経外来	犬塚 幹	生活習慣病外来 (隔週)
泌尿器科	新患	徳永 亨介	※	南 祐三	※	徳永 亨介		南 祐三	※	徳永 亨介
	再診	南 祐三		徳永 亨介		南 祐三	南 祐三 (前立腺)	徳永 亨介		南 祐三
眼科			上松 聖典 (非)							
耳鼻咽喉科	大里 康雄	※	大里 康雄	※	大里 康雄	大里 康雄	大里 康雄	※	大里 康雄	※
	*						*			
放射線科	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一	平尾 幸一
	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真	堀上 謙作 末吉 真
放射線治療計画					山崎 拓也	山崎 拓也				
救急総合診療部☆	内科系	木下 昇 佐藤 浩信	高原 靖 赤司 良平	原口 愛	担当医	山島 美緒	山島 美緒 妹尾 健正	高原 靖	担当医	赤司 良平
	外科系	清水 輝久	久永 真 草場 隆史	清水 輝久	久永 真 草場 隆史	清水 輝久	久永 真 草場 隆史	清水 輝久	久永 真 草場 隆史	清水 輝久
メモリークリニック (もの忘れ外来)	井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦		井手 芳彦			井手 芳彦
専門外来	インターフェロン		木下 昇 14:00-16:00 (新患紹介のみ)							
	ペースメーカー		木崎 嘉久 中尾功二郎 14:00-16:00 (第2,第4)							
	乳腺		佐々木伸文 14:00-17:00 (第2,第4)				碓 秀樹 14:00-17:00			佐々木伸文 13:30-16:30
	ストーマ			清水 輝久 14:00-16:00 (第2火曜日)						
	禁煙			菅村 洋治 14:00-16:00		菅村 洋治 14:00-16:00				
	ステントグラフト			橋本 亘						
	下肢静脈瘤							柴田隆一郎 14:00-15:00		
	CAPD							林 和歌 14:00-15:00 (4週1度再診)		
睡眠時無呼吸外来							植木 幸孝 9:30-10:30 (第3)			
健康増進センター	中尾 治彦		中尾 治彦		中尾 治彦		中尾 治彦		寺園 敏昭	
	寺園 敏昭		寺園 敏昭		寺園 敏昭		寺園 敏昭		尾崎 美砂	
			尾崎 美砂						松永 陽一	
			野々下晃子							
乳がん検診	佐々木伸文		碓 秀樹		佐々木伸文		碓 秀樹		久永 真	
婦人科検診 (特別顧問外来)	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	石丸 忠之	

Dept. of Cardiology

循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



内科系統括診療部長兼
循環器内科診療部長

木崎 嘉久
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本心血管インターベンション治療学会認定医・指導医
同九州地方会運営委員
日本高血圧学会専門医・指導医
日本医師会認定産業医



診療副部長

中尾 功二郎
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本循環器学会認定専門医



医員

赤司 良平
(あかし りょうへい)

宮崎大学 平成18年卒
日本内科学会認定内科医



医員

高原 靖
(たかはら やすし)

久留米大学 平成20年卒



非常勤

矢野 捷介
(やの かつすけ)

長崎国際大学 健康管理学部長
長崎大学医学部名誉教授
長崎大学 昭和41年卒
日本内科学会認定内科医
日本循環器学会認定専門医
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医

診療内容

循環器内科は狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して冠動脈・大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患など
- 〈心臓心筋疾患〉心膜炎、心筋炎、心筋症など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症など

診療実績

外来診療は平日午前中に新患・再来を各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2・第4月曜日の午後に実施しています。平日午後には血管インターベンション加療（PCI）やカテーテルアブレーション加療

（ABL）などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携センターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受け入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外では内科系当直への連絡と対応になりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する際でも循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペーシング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT.graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準を満たして加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2011年12月までに地域医療機関67施設、延べ243症例で運用しています。

■主な診療実績 2011年(1/1-12/31)

心臓カテーテル検査	368例
心血管インターベンション加療	221例
末梢血管インターベンション加療	44例
心エコー図検査	2629例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	58例
心臓CT(冠動脈CTA)	295例
大動脈CT	256例
心筋シンチ	215例
年間入院数	510名

(急性心筋梗塞36名)

■循環器関連機器

・心エコー図装置	3台
Toshiba社製 Aplio(腹部・表在血管など汎用型)	
・血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Arura(汎用型)	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i INFX-8000C	
・64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
・負荷 ECG装置	
エルゴメータ 1台 トレッドミル 1台	
・RI装置	1台
・MRI	1台

(心臓用 softwareなし)

認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修関連施設
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)
- ・大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・両心室再同期療法
- ・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設

Dept. of Respiratory Medicine

呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者様を対象に、診断および内科的な治療を行っています。

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



副部長

小林 奨

(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒
日本内科学会認定内科医
Infection control doctor, 医学博士

医員

大島 一浩

(おおしま かずひろ)

山口大学 平成20年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

呼吸器内科の診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈呼吸器感染症〉かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など

〈慢性閉塞性肺疾患〉肺気腫、慢性気管支炎

〈アレルギー・免疫疾患〉気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシスなど

〈間質性肺疾患〉間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺など

〈肺腫瘍〉原発性肺がん、転移性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫など

〈気管支拡張症〉

〈びまん性汎細気管支炎〉

〈慢性呼吸不全〉在宅酸素療法など

〈慢性咳嗽〉

診療実績

入院は主に5階西病棟で診療しています。しかし、入院患者数の増加に伴いその他病棟で診療する機会が増えていきます。専門性の高い疾患が多いため、新病棟竣工後はなるべく一つの病棟で管理できるようになることを希望しています。入院で最も多い疾患は肺炎です。特に誤嚥性肺炎は多く、当科以外の内科の先生にも診療していただいている状況です。もう1人常勤の医師がいればカバーできますが、現時点で全てを受け持つことは困難です。また、肺がんも増加しております。一般的に呼吸器内科では肺がんの入院患者様が半数を占めることが稀ではないことから、今後も増加することが予想されます。結核に関しては入院後判明したものは少なく、前もって疑い隔離していたか排菌陰性例(治療導入後、肺外結核)が多数であり感染伝播を未然に防ぐことができます。しかし、施設面では万全と行うことができません。

ん。簡易陰圧室も各階西病棟に設置されましたが、十分な対策とは言えません。重症のインフルエンザ肺炎などを診療することもあわせて考えると感染症病棟(3~5床)設置も必要と考えます。

外来は月曜日、火曜日、木曜日の午前中です。しかし、外来患者数の増加に伴い午後まで外来延長することが常態化しており、午後枠を設ける必要ができています。当科外来で最も多い疾患は肺炎です。次いで気管支喘息、非結核性抗酸菌症、肺がんと続きます。結核の症例も少なくないため十分な注意が必要です。現在、結核疑いの症例は通常外来での診療ではなく、相談室を利用し他の患者様から隔離しています。新病棟竣工後は感染症外来で診療可能となる予定であり、空気感染する結核への防御がより高まります。

■主な診療実績

(入院)

	2009年	2010年	2011年
延 在 院 日 数	2,220日	7,640日	7,927日
実 入 院 患 者 数	116名	423名	380名
退 院 患 者 数	109名	416名	376名
(当 科 / 全 科)	(1.96%)	(6.98%)	(6.70%)
平 均 在 院 日 数	20.9日	17.4日	21.1日
気 管 支 鏡 症 例 数	122件	403名	243名

(外来)

	2009年	2010年	2011年
外 来 新 患 数	140名	296名	424名
外 来 再 来 患 者 数	727名	1,732名	2,283名

Dept. of Neurology

神経内科

パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



診療部長
竹尾 剛
(たけお こう)

医学博士
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



非常勤
吉村 俊朗
(よしむら としろう)

医学博士
長崎大学 医歯薬学総合研究科 教授
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医

診療内容

神経内科は頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

診療実績

2010年6月より常勤医が就勤し、月曜から金曜まで毎日診療できる体制となり、救急受け入れも可能となりました。

吉村の外来診療は、従来通り新患・再来共に、毎週木曜日の午前中となっており、残りの月・火及び金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制をとっています。

神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的小さいのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、実

際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見も、開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思います。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションも、シームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より準教育施設に認定され、研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっていきたく考えています。

■主な診療実績(入院患者)

・神経変性疾患	
パーキンソン病	12名
脊髄小脳変性症	3名
筋萎縮性側索硬化症	1名
不随意運動疾患	1名
正常圧水頭症	1名
他のパーキンソニズム(PSP、CBDなど)	3名
・認知症性疾患	
びまん性レビー小体病	3名
アルツハイマー病	1名
その他	1名
・脳血管障害	19名
・てんかん	14名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS、NMO、脊髄炎など)	9名
・内科疾患・代謝性疾患に伴う神経障害	6名
・めまい	5名
・末梢神経疾患(GBS、CIDPなど)	3名
・神経感染症	3名
・筋疾患(筋炎、ジストロフィーなど)	1名
・その他	8名

■循環器関連機器

MRI、MRA	2,752件
CT	2,103件
頸部血管エコー	494件
脳波	213件
SPECT	159件
脳血管撮影	48件
神経伝導検査	43件
筋生検	4件
針筋電図	1件
誘発筋電図(SEP、VEP、ABR)	1件
神経生検	1件
(認知症疾患医療センターおよび脳神経外科の検査件数を含んでいます)	

認定施設

日本神経学会認定準教育施設

Dept. of Endocrinology

内分泌内科

バセドウ病や橋本病などの女性に多い甲状腺疾患の診療を行っています。

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



非常勤
大財 茂
(おおたから しげる)

日本東洋医学認定専門医

非常勤
藤山 薫
(ふじやま かおる)

長崎大学 平成元年卒



非常勤
安部 恵代
(あべ やすよ)

長崎大学平成6年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

内分泌内科は甲状腺、副甲状腺、下垂体、副腎、骨粗しょう症を含む骨カルシウム代謝疾患を対象として診断・治療を行っています。

甲状腺疾患は頻度が多く、診療の中心になっています。バセドウ病や橋本病などの自己免疫性甲状腺疾患

は若年から中年女性に多い疾患で、妊娠・出産時は重点的管理を行います。甲状腺がんでは超音波検査や細胞診を行っています。内分泌疾患診断のため、必要に応じてCTあるいはMRI検査に加え、RI検査で甲状腺、副甲状腺、副腎シンチグラムも行っていきます。

診療実績

診療体制は、非常勤医師3名で対応しております。大財は耀光リハビリテーション病院院長を兼務し、毎週木曜日の午後に来来診療を行っております。藤山は毎週金曜日に午前中は内分泌疾患、午後は骨代謝疾患を中心に診療を行っております。また、安部は月に1度第2週目に長崎大学病院より来院し外来診療を行っております。

超音波(甲状腺)件数

医師名	件数
大財 茂	202
藤山 薫	107
安部 恵代	10
総計	319

Dept. of Surgery

外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者様のQOLを重視した縮小手術も積極的に実施

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



院長補佐・診療部長
碓 秀樹
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒
医学博士
日本外科学会認定医、日本消化器外科学会認定医
マンモグラフィ読影認定医
日本医療マネジメント学会評議員
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



副院長・救急部長
清水 輝久
(しみず てるひさ)
2012年4月退職

長崎大学 昭和51年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医、日本大腸肛門病学会専門医・指導医・評議員、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本消化管学会胃腸科認定医、日本救急医学会救急科専門医、消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、日本ハイパーサーミア学会認定医、日本胆道学会指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医・評議員、日本内視鏡外科学会技術認定、日本内視鏡外科学会技術審査委員会(消化器一般外科)委員・評議員、ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)認定、日本胆道学会評議員、日本臨床救急医学会評議員、日本腹部救急医学会評議員、日本消化器病学会九州支部評議員、日本消化器内視鏡学会九州支部評議員、日本救急医学会九州地方会評議員、九州外科学会評議員、日本大腸肛門病学会九州地方会評議員



外科系統括診療部長・手術部長
梶原 啓司
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒
医学博士
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医



副部長
重政 有
(しげまさ ゆう)

防衛医科大学 平成2年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本肝胆膵外科学会高度技術指導医・評議員



副部長
佐々木 伸文
(ささきの のぶひさ)

宮崎医科大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会専門医、日本胸部外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医、日本乳癌学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



副部長
羽田野 和彦
(はたの かずひこ)

徳島大学 昭和55年卒
医学博士
長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会専門医、日本消化器外科認定医
日本肝胆膵外科学会評議員



医長
草場 隆史
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本外科学会認定医
日本外科学会専門医



医員
久永 真
(ひさなが まこと)
2012年3月退職

長崎大学 平成19年卒



医員
武岡 陽介
(たけおか ようすけ)
2012年4月就勤

長崎大学 平成19年卒



名誉顧問
國崎 忠臣
(くにざき ただおみ)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本ハイパーサーミア学会指導医、日本緩和医療学会暫定指導医



非常勤
菅村 洋治
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒
日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医

診療内容

外科は、現在8名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設、若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては年間約50例の腹腔鏡下手術を行い、大腸癌に対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っています。

す。胸腔鏡下手術は、自然気胸や肺腫瘍に対して年間40例を行っています。自然気胸の患者様に対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者様のニーズにこたえています。

研究面では、約3年前から赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳腺領域を中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。現在胃がん、大腸がんの手術にも応用を始めており、今後は肝胆膵など他の領域へも適用を広げていく予定です。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告(P94参照)を別記のように、発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急性の高い患者様に対しては

24時間対応しており、2011年度は1,850台の救急車を収容し、102例の緊急手術を施行しました。

■主な診療実績

-手術症例数-

手術総数 582 (全身麻酔 373、腰椎麻酔 132、局所麻酔 77)					
(1) 乳腺腫瘍 ・乳癌 ・その他(葉状腫瘍等)	79例 61例 18例	(5) 胃癌 ・幽門側切除術 ・分節切除 ・全摘 ・非切除	36例 22例 1例	(9) 胆石症 ・(内)腹腔鏡下 ・(内)総胆管切開	55例 37例 5例
(2) 甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	10例 6例 4例	(6) 胃十二指腸潰瘍穿孔 (大網充填術)	10例 3例 3例	(10) 胆嚢腫瘍 ・(内)肝床切除	5例 4例
(3) 呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 40例) ① 肺癌 ② 良性肺腫瘍 ③ 縦隔腫瘍 ④ 気胸 ⑤ その他	44例 15例 3例 5例 13例 8例	(7) 大腸癌 ・結腸癌 (内)腹腔鏡補助下 ・直腸癌 (前方切除) (マイルズ手術) (ハルトマン手術) (人工肛門造設)	68例 44例 7例 24例 15例 5例 2例 2例 1例	(11) 肝腫瘍 ・原発性 ・転移性 (12) 胆管癌(肝切除) (13) 膵腫瘍 ・膵頭十二指腸切除 ・膵分節切除 (14) 脾腫 (15) ヘルニア ・鼠径 ・大腿 ・閉鎖孔 ・腹壁	6例 4例 2例 2例 1例 1例 1例 75例 58例 6例 3例 8例
(4) 食道癌	1例	(8) 小腸腫瘍	1例		
(内)緊急手術 102(全身麻酔 55、腰椎麻酔 44、局麻 3)					
・急性虫垂炎 ・穿孔性腹膜炎 ・腸閉塞	35例 18例 7例	・ヘルニア嵌頓 ・外傷 ・骨折	12例 2例 13例	・自然気胸 ・その他	4例 11例



認定施設

- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本大腸肛門病学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設

Dept. of neurosurgery

脳神経外科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



診療部長
阪元 政三郎
(さかもと せいさぶろう)

福岡大学 昭和60年卒 医学博士
日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、長崎クモ膜下出血研究会世話人、長崎県北脳卒中研究会世話人、長崎県北神経懇話会世話人、福岡脳卒中連携セミナー世話人、福岡脳卒中救命セミナー世話人、福岡脳脊髄治療懇話会世話人、福岡脳神経先端治療研究会世話人、福岡大学臨床教授



医長
吉野 慎一郎
(よしの しんいちろう)
2012年1月就勤

福岡大学 平成5年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
JPTECインストラクター



医員
河井 伸一
(かわい しんいち)
2012年4月就勤

福岡大学 平成21年卒



非常勤
衛藤 達
(えとう とおる)

福岡大学 平成9年卒
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医

診療内容

脳神経外科は脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さまを対象に、専門性の高い診断および外科的治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

診療実績

1995年の大和町移転時より脳神経外科が新設され、特に救急での脳血管障害、外傷、さらに脳腫瘍・脊椎疾患等を治療しています。2009年3月には県北部の地域脳卒中センターに認定され、発症3時間以内での超急性期血栓溶解療法(t-PA)適応患者様の搬入も増加傾向にあります。

365日休みなしのリハビリ対応も他施設にはなく、コメディカルの協力もあり(24時間MRI対応、エコーによる心臓、頸動脈評価)、また脳卒中連携パスを用いて急性

期から回復期への患者様の管理を行うことで連携がスムーズとなり、地域に信頼される脳卒中センターが構築されつつあります。

2009年に手術顕微鏡(Zeiss社OPMI Pentrero)も新しくなり、機能性が向上し、術中血管造影が可能となり、脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術、バイパス術等により安全確実な治療が可能となりました。また、2011年神経内視鏡(軟性鏡:オリンパス社、硬性鏡:STORT社)を導入し、低侵襲治療として脳出血、硬膜下血腫、下

垂体、動脈瘤治療等に使用しています。2012年末には3.0T MRIが導入されることになり、画像診断の向上が図れる予定です。

福岡大学の協力のもと、血管内外科治療や頸椎疾患も治療可能になり、脳神経外科疾患の全般にわたる

治療が可能となりました。今後はさらなる脳卒中治療の充実を図るため、院内での教育、脳卒中リハビリテーション認定看護師による患者・家族への指導、地域への啓蒙活動を行い、地域医療に貢献していきたいと思っています。

■主な診療実績 (件)

手術名	2010年 1月～12月	2011年 1月～12月
開頭クリッピング	29	20
動脈瘤コイルリング	1	2
脳出血開頭血腫除去	11	8
脳動静脈奇形摘出	1	1
頸動脈内膜剥離術	8	9
頸動脈ステント留置術	1	1
STA-MCAバイパス	0	3
脳腫瘍摘出	6	9
急性硬膜外血腫	5	9
急性硬膜下血腫	9	4
慢性硬膜下血腫	30	18
V-Pシャント	6	4
鎖骨下動脈ステント留置	1	1
頭蓋形成術	2	5
脳室ドレナージ	6	3
外減圧	1	4
頸椎前方固定	0	0
腫瘍除去	0	3
神経血管減圧術	1	0
塞栓術(腫瘍・AVM・dAVF)	0	5
その他	13	8
計	131	117

認定施設

・日本脳神経外科学会 専門医訓練施設

Dept. of Cardiovascular Surgery

心臓血管外科

人工心臓使用手術症例500例に達し最新機器も導入

診療担当医 ※2012年3月末日現在



副院長・診療部長
柴田 隆一郎
(しばた りゅういちろう)

長崎大学 昭和54年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医、日本救急医学会専門医、
日本胸部外科学会認定医、日本胸部外科学会正会員、
日本胸部外科学会九州地方会評議員、長崎大学心臓
血管外科非常勤講師



医長
橋本 亘
(はしもと わたる)
2012年5月退職

久留米大学 平成10年卒
日本外科学会専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本循環器学会認定循環器専門医
日本血管外科学会認定血管内治療医
腹部ステントグラフト内挿術実施医
日本脈管学会認定脈管専門医



医長
谷口 真一郎
(たにくち しんいちろう)

長崎大学 平成11年度卒
日本外科学会専門医
三学会構成心臓血管外科専門医



医長
中路 俊
(なかじ しゅん)
2012年5月就勤

長崎大学 平成14年卒
日本外科学会専門医

診療内容

心臓血管外科は常時24時間緊急に対応できる体制を整え、診療を行っております。また、循環器内科・放射線科の医師と綿密に連絡を取り合い、患者様に最適な医療を提案しております。私たちは主に心臓疾患・大血管疾患・末梢血管疾患の外科治療を行っております。

①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心臓疾患には狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っており

ます。特に最近では高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために人工心臓を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っております。

②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは常時24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っております。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術(2009年6月)を行うことが可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けていただくことが出来ます。

〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担が軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要がある治療法ですが、今後さらに増加していくと考えられます。

③末梢血管疾患

動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っております。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら適切で最小限の皮膚切開を行う方法でストリッピング手術を行っております。

診療実績

手術名	手術実績 (件)			
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
開心術(OPCAB)	38	39(1)	41(7)	39(6)
胸部大血管(SG)	6	5	6	6(1)
腹部大血管(SG)	7	8(2)	13(3)	13(2)
末梢動脈	15	23	24	18
末梢静脈	67	47	64	80
内シャント造設術	-	4	26	32

認定施設

- ・胸部ステントグラフト実施施設
- ・腹部ステントグラフト実施施設

Dept.of pediatrics

小児科

子供の心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



診療部長
山田 克彦
(やまだ かつひこ)

大分大学 平成2年卒
日本小児科学会認定小児科専門医、日本循環器学会
認定循環器専門医、日本小児循環器学会会員、日本川
崎病学会会員、日本小児アレルギー学会会員



副部長
犬塚 幹
(いぬづか みき)

大分大学 平成6年卒
日本小児科学会認定小児科専門医、日本小児神経学
会認定小児神経専門医、日本てんかん学会認定てん
かん専門医、日本外来小児科学会会員

診療内容

小児科は新生児医療を除く一般小児内科領域を幅広く診療しています。入院診療は、主として開業の先生方からの紹介患者様の検査や治療を外来は医師の専門性を生かした専門医療を、それぞれ柱として診療しています。また、保護者や教育・保育機関を対象とする講演会を通じて小児医療の啓蒙活動にも力を入れ、

小児科医としての社会的責任を果たしたいと願っています。

医師の専門分野である「小児循環器」と「小児神経」のほか、当科では子供の現代病と呼ばれている「心身症」、「アレルギー」、「生活習慣病」にも取り組んでいます。

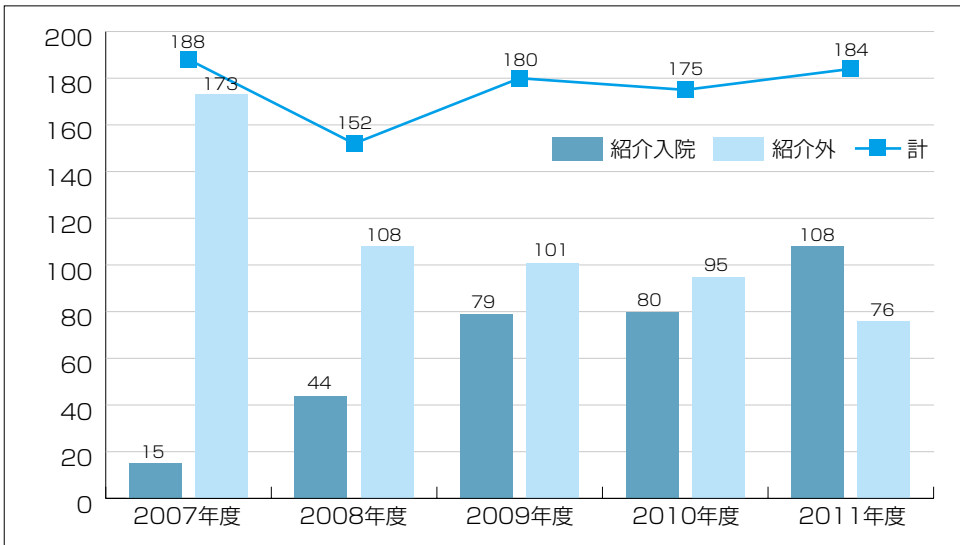
診療実績

2011年度の入院患者様は188名、うち108名が他院からの紹介患者様でした。

■紹介元医療機関

紹介元医療機関	医療機関数	ご紹介件数
小児科医院	16	146
小児科以外の医院	25	47
病院（小児科他）	6	20
その他	5	20
合計	52	233

■年度別入院数と紹介の有無



■入院患者の内訳

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	23	急性胃腸炎	12
D	血液および造血器、免疫機構の障害	2	血管性紫斑病	2
E	内分泌、栄養および代謝疾患	7	低身長	6
G	神経系の疾患	4	てんかん	2
H	眼と付属器、耳および乳様突起の疾患	4	中耳炎	4
J	呼吸器系の疾患	138	肺炎	112
K	消化器系の疾患	2	急性虫垂炎	1
L	皮膚および皮下組織の疾患	1	蜂巣炎	1
M	筋骨格系および結合組織の疾患	5	川崎病	5
N	尿路性器系の疾患	1	ネフローゼ	1
S-T	損傷、中毒およびその他の外因	1		
	合計	188		

■その他

	2009年度	2010年度	2011年度
外来患者数	4,229	4,372	4,168
入院患者数	180	175	188
延べ入院患者数	1,025	982	1,152

検査	2009年度	2010年度	2011年度
心エコー	78	77	123
脳波	76	99	110

心身症カウンセリング	2009年度	2010年度	2011年度
	134	116	115

Dept. of urology

泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



副院長・診療部長

南 祐三

(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒
日本泌尿器科学会認定専門医・指導医



医長

徳永 亨介

(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒
日本泌尿器科学会認定専門医

診療内容

泌尿器科は男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器（腎臓、尿管、膀胱、尿道）の疾患の患者様（女性・小児を含む）を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺癌、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓癌、膀胱癌、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺癌は近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中において、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者様の立場での診療ができて有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに地域に貢献できるかという診療姿勢が問われております。そうとは言え、診療能力（マンパワー）が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者様にご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2011年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く、次年度も頑張って理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

■主な診療実績

経尿道の膀胱腫瘍切除術	46例	腎摘出術	3件
前立腺癌全摘出術	7例	膀胱癌全摘出術	2例
経尿道の前立腺切除術	4例	前立腺生検査	112例

認定施設

泌尿器科専門医教育施設

Dept. of Dermatology

皮膚科

皮膚科は月曜日から金曜日まで、毎日午前9:00～12:00まで一般外来診療を行っています。
午後は検査、外来小手術、院内外来診療、入院患者診療などを行っています。

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



副部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

診療内容

皮膚科領域全般にわたり診療していますが、主な診療疾患は以下のとおりです。

- ・ 虫さされ、接触性皮膚炎（かぶれ）、光線過敏症などの湿疹・皮膚炎疾患
- ・ 皮膚掻痒症、乾燥肌、アレルギー性疾患（蕁麻疹、アトピー性皮膚炎など）
- ・ 顔面の疾患（にきび、吹き出物、ほくろなど）
- ・ 口の中の異常など
- ・ 手足の疾患（汗疱、掌蹠膿疱症、多汗症）
- ・ 表在性真菌症（水虫、ぜにたむし、いんきんたむし、しらくもなど）
- ・ たこ（胼胝）、ウオノメ（鶏眼）
- ・ 円形脱毛症
- ・ 帯状疱疹やイボなどのウイルス性疾患
- ・ 尋常性乾癬など炎症性角化症や紅皮症
- ・ 水疱症（尋常性天疱瘡、水疱性類天疱瘡）
- ・ 薬疹、中毒疹など
- ・ 糖尿病・膠原病などの内科的疾患に伴う皮膚症状
- ・ 爪疾患、爪の異常：陥入爪、彎曲爪（巻き爪）
- ・ 熱傷、化学熱傷、凍瘡などの物理・科学的障害
- ・ 褥創などの壊疽
- ・ 皮膚腫瘍（良性・悪性）
- ・ 小児皮膚疾患：とびひ、いぼ、みずいぼ、オムツかぶれ、アトピー性皮膚炎など

主な検査・治療

《検査》

- ・ 皮膚生検：疾患診断、病変の深達度を診断するために、病変を含めて皮膚を一部切除します。局所麻酔下に実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えてください。
- ・ 貼付試験：かぶれや薬疹の原因を検索する検査で、皮疹のない背部に薬剤を染み込ませた絆創膏を貼り、48時間後に除去して紅斑、丘疹などの有無を観察し、さらに72時間後、1週間後にも観察します。
- ・ ダーモスコピー：黒色皮疹を呈する患者さんの場合、母斑や悪性黒色腫、その他の皮疹などを、この器具を用いて鑑別しようとする方法です。



《治療》

- ・冷凍凝固療法:ウイルス性,老人性疣贅に液体窒素を圧抵し,壊死脱落させる方法です。
- ・外用PUVA ,PUVA- Bath療法:乾癬,掌蹠膿疱症,白斑,円形脱毛症,悪性リンパ腫の皮膚浸潤などに用いる治療法で,紫外線を距離と時間を決めて,数日間隔で照射する方法です。
- ・局所免疫療法:円形脱毛症の難治例に用いる治療法で,人工的に接触皮膚炎をおこし,発毛を促す方法です。
- ・腫瘍切除:良性,悪性を問わず腫瘍部を切除します。場合によっては皮膚形成術(皮弁または植皮となる場合があります)を施行する場合があります。
- ・巻き爪の治療:弾性ワイヤー治療,陥入爪根治術療法(フェノール法)
- ・弾性ワイヤー療法は外来治療で可能ですが,施術には爪の長さなど条件があります。陥入爪根治術療法(フェノール法)は短期入院して頂く場合があります。
- ・男性型脱毛症:当院には飲み薬のプロペシア(保険適用外)があります。

診療実績

■患者数件数

- ・一般外来(入院中外来を除く)…………… 5,672人
- ・入院…………… 43人

■検査件数

- ・皮膚組織試験採取術(皮膚生検)…………… 38例

■外來手術件数

- ・皮膚,皮下腫瘍切除術…………… 17例
- ・陥入爪根治術…………… 10例
- ・皮膚悪性腫瘍切除術…………… 1例

■入院手術件数

- ・皮膚,皮下腫瘍切除術…………… 3例

Dept. of Radiology

放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用

診療担当医 ※2012年3月末日現在



理事・副院長
地域医療連携センター長
医療情報本部長

平尾 幸一
(ひらお こういち)

長崎大学 昭和56年卒 医学博士
日本医学放射線学会診断専門医、日本ハイパーサーミア学会認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、九州山口ハイパーサーミア研究会世話人



診療部長

堀上 謙作
(ほりかみ けんさく)

長崎大学 平成5年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
検診マンモグラフィ読影認定医



医長

末吉 真
(すえよし まこと)

長崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会診断専門医

診療内容

①画像診断業務

- 1) CT、MRI、核医学、血管造影(心臓カテーテル検査以外)による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- 2) CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。
- 3) 当院の特徴の一つは、胸部の単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- 4) 検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名(放射線科及び外科)がダブルチェックを行っています。
- 5) 検診の肺CT・脳MRIは放射線科と検診センター(検診医)がダブルチェックを行っています。
- 6) CT、MRI、核医学の報告書は約85%以上が検査後24時間以内に作成されています。

②IVR

- 1) 血管系IVRは肝腫瘍に対する動脈化学塞栓術が最も多い割合を占めています。
- 2) 内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- 3) 非血管系のIVRは胆道系(ドレナージや胆道内瘻化)、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- 4) 胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

③放射線治療・ハイパーサーミア(温熱療法)

- 1) 毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会放射線治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- 2) 地域医療機関より、乳房温存術後や子宮癌の放射線治療依頼を受けています。
- 3) 他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア(温熱療法)を受けることが可能です。

診療実績

画像診断

胸腹部単純X線写真読影	19,129件
血管造影検査	207件
CT	11,252件
MRI	4,773件
マンモグラフィ	2,159件
核医学検査	702件

IVR

血管系IVR	
肝腫瘍化学塞栓術	82件
消化管出血の塞栓術	6件
リザーバー留置術	1件
透析シャントの血管拡張術	8件
大動脈ステント内挿術	3件
その他	16件

非血管系IVR

胆道ドレナージ・内瘻化	35件
膿瘍ドレナージ	6件
生検(超音波・CTガイド下)	5件
マーキング(CTガイド下)	2件

■放射線治療

乳房	57件
肺	15件
膀胱・前立腺	30件
肝臓・胆道・膵臓	15件
食道	6件
その他	57件

■ハイパーサーミア 41件

外来診療体制

■画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30
 地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。
 なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

■放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会放射線治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放射線治療計画を立てて行います。

■ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。
 月～木曜日(3名)、10:30～、13:00～、15:00～
 金曜日(2名)、13:00～、15:00～

認定施設

日本ハイパーサーミア学会認定施設
 日本医学放射線学会専門医修練協力施設

Dept. of Otolaryngology

耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



副部長

大里 康雄

(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒
日本耳鼻咽喉科学会専門医

診療内容

耳鼻咽喉科は2008年4月1日より、これまでの常勤医2名体制から、常勤医1名+非常勤1名(月・金の外来のみ)へ変更となりました。それに伴い、頭頸部腫瘍手術などに関しましては当科では対応できなくなりましたが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう努力しております。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈耳疾患〉

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

〈鼻疾患〉

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や薬物治療・外科的治療など

- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術
- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

〈咽喉頭・頸部疾患〉

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽喉頭異物に対する内視鏡下異物摘出術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査) 40例
 両側口蓋扁桃摘出術 18例
 気管切開術 10例
 内視鏡下鼻内副鼻腔手術 10例
 鼓室形成術 5例

声帯ポリープ切除術 5例
 鼓膜チューブ留置術(全身麻酔下) 4例
 鼓膜形成手術 3例
 頭頸部悪性腫瘍に対する放射線治療 2例
 口腔悪性腫瘍摘出術 1例

認定施設

日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設

Dept. of anesthesiology

麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



診療部長

堤 雅俊

(つみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒
麻酔標榜医



医長

福島 浩

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒

診療内容

麻酔科は術中の麻酔管理を主な仕事としており、その殆どは全身麻酔症例です。また、ICUにおいて課長・

主任とともに管理・運営を行っております。

診療実績

2011年の手術症例は1048例で、全身麻酔症例は585例(うち緊急手術は104例で18%を占めた)・脊椎麻酔264例・硬膜外麻酔4例でした。

2011年の全身麻酔症例の詳細は、各科別では外科356例(緊急44例)・脳神経外科82例(緊急39例)・心臓血管外科80例(緊急17例)・泌尿器科18例(緊急2例)・耳鼻咽喉科43例(緊急1例)と脳神経外科の5割、心臓血管外科の2割が緊急症例でした。

2011年の手術時間では、最長12時間40分の手術(脳神経外科で後頭蓋窩腫瘍)をはじめ、8時間を超える症例が12例でした。年齢別では、最高齢93歳で80歳以上の高齢者が89例でした。

麻酔法はセボフルレン・アルフェンタニルによるバランス麻酔とプロポフォール・アルフェンタニルによる全静脈麻酔と半々です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは病床数8床で、重症者と術後(全身麻酔後)を受け入れています。

2011年は906名の入室があり、稼働率は84.5%で1月が98%と最も高く、5月が63.3%と最も低い稼働でした。内訳は外科402名・脳神経外科197名・心臓血管外科94名・泌尿器科18名・循環器内科93名・一般内科70名・消化器内科31名・耳鼻科1名でした。

Dept. of Pathology

病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンス

診療担当医 ※2012年3月末日現在



病理部長
臨床検査部長
米満 伸久
(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒 医学博士
日本病理学会病理専門医研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医、日本臨床検査医学会管理医、死体解剖資格、ICD(インフェクション・コントロールドクター)、佐賀大学医学部臨床教授、佐賀大学医学部非常勤講師、佐世保市医師会看護学校非常勤講師、Pathology International編集委員

非常勤
戸田 修二
(とだ しゅうじ)

佐賀医科大学 昭和59年卒
医学博士
日本病理学会病理専門医研修指導医、細胞診専門医、死体解剖資格

非常勤
山崎 文朗
(やまさき ふみろう)

佐賀医科大学 平成3年卒
医学博士
日本病理学会病理専門医研修指導医、日本臨床細胞学会細胞診専門医、死体解剖資格

非常勤
内橋 和芳
(うちはし かずよし)

佐賀医科大学 平成11年卒
医学博士
日本病理学会病理専門医研修指導医、日本整形外科学会専門医、死体解剖資格

非常勤
松延 亜紀
(まつのぶ あき)

佐賀医科大学 平成14年卒
日本内科学会認定内科医、日本肝臓学会肝臓専門医



非常勤
山本 美保子
(やまもと みほこ)
2012年4月就勤

佐賀医科大学 平成19年卒



非常勤
薬師寺 舞
(やくしじ まい)
2012年4月就勤

佐賀医科大学 平成20年卒

診療内容

病理部では日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC)を用いてきましたが、他の胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診も日常より、より良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取した検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置に作業の効率化を図ると共に、陽

性コントロール、陰性コントロールを常に併用することにより、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2染色を行うようになりました。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とも

に、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。その他、泌尿器とは不定期ですが症例検討を行っています。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。最低限ではありませんが、内科教育病院の基準はクリアしています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2010年度はCPCを8回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数から致し方ないところです。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度の高い術中診断を行えるようになりました。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年30ないし40例程度あります。若い先生には消化器のカンファレンスなどでは内視鏡所見やESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表していただいています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下スタッフにも病理診断に加わっていただき、80%程度の症例のダブルチェック体制を整えつつあります。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒後教育にも積極的にかかわっています。

診療実績

	2009年度	2010年度	2011年度
組織診断	2,688件	2,478件	1,992件
細胞診断	4,440件	4,400件	4,544件
解剖	14件	10件	10件
剖検例CPC	8件	8件	6件
外科病理カンファレンス	8件	9件	5件

Diabetes Center

糖尿病センター

糖尿病患者様の自己管理を専門チームが支援

診療担当医 ※2012年3月末日現在



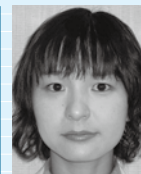
糖尿病センター長
松本 一成
(まつもと かずなり)

長崎大学 昭和62年卒 医学博士
長崎大学臨床教授、日本内科学会認定内科医、日本糖尿病学会専門医・指導医、臨床コーチング研究会認定コーチ、臨床コーチング研究会幹事



診療部長
尾崎 方子
(おざき まさこ)
2012年4月就勤

大分医科大学 平成6年卒
日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



医員
原口 愛
(はらぐち あい)
2012年3月退職

長崎大学 平成19年卒
日本内科学会認定内科医



非常勤
藤島 圭一郎
(ふじしま けいいちろう)

藤田保健衛生大学 平成13年卒
日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医

診療内容

糖尿病センターはかかりつけ医から紹介された患者様や、健康診断で糖尿病が疑われた患者様(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者様などを対象にしています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。その一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携パス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。ここでは患者様は、通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、医療資源を最大限に生

かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くなるように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者様自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者様の自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「持続血糖モニター入院(3泊4日)」、「栄養看護外来」の5つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者がHbA1c (NGSP値) 6.9%未満を達成されています。

診療実績

糖尿病センターではおよそ1400名の糖尿病患者様を専門外来にて診療し、年間およそ100名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認定教育施設です。常勤医は松本・尾崎の2名です。また非常勤の

藤島とあわせて3名で診療しています。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師などコメディカルも大いに活躍しており、大変すばらしい療養指導が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。これ

は大変専門性の高い技術です。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチングなど幅広い発表内容になっています。

「共感的に患者様の言葉を傾聴する」、「わからないことは、わかるまで繰り返し情報提供を続ける」、「どうしたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われ

がちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者様の自主性を支援することをエンパワメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者様に理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者様の双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

■糖尿病教室

- 月・尾崎／栄養士
- 火・栄養士 理学療法士
- 水・松本／栄養士
- 木・栄養士 看護師
- 金・藤島／栄養士 臨床検査技師

■主な診療実績

- 2011年度新患者数 276名
- 月平均受診者数 1,142名
- 平均HbA1c (NGSP) 7%

■クリニカルインディケーター

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年 間
2011年度		30.72%	44%	37.80%	28.73%	35.34%
	HbA1c<6.5%	396	543	457	347	
	全体	1,289	1,231	1,209	1,208	
		53.84%	63.93%	59.14%	49.09%	56.50%
	HbA1c<7.0%	694	787	715	593	
	全体	1,289	1,231	1,209	1,208	
		81.15%	86.76%	84.45%	79.14%	82.87%
	HbA1c<8.0%	1,046	1,068	1,021	956	
	全体	1,289	1,231	1,209	1,208	
		92.94%	94.88%	94.95%	91.39%	93.54%
	HbA1c<9.0%	1,198	1,168	1,148	1,104	
	全体	1,289	1,231	1,209	1,208	

認定施設

日本糖尿病学会認定教育施設

Dept.of Arthritis and Lupus Center Dept.of Arthritis and Lupus Center

リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



病院長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士 長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェシス学会認定専門医、九州リウマチ学会評議員



センター長
寺田 馨
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医



診療部長
佐藤 浩信
(さとう ひろのぶ)
2012年6月退職

九州大学 昭和60年卒
医師会認定産業医



医長
岩永 希
(いわなが のぞみ)

長崎大学 平成12年卒
日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医



医員
西野 文子
(にしの あやこ)
2012年4月就勤

長崎大学 平成21年卒



非常勤
一瀬 邦弘
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医、日本腎臓学会専門医



非常勤
岩本 直樹
(いわもと なおき)
2012年4月就勤

長崎大学 平成14年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医



非常勤
山崎 聡士
(やまさき さとし)
2012年3月退職

長崎大学 平成6年卒 医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医

診療内容

リウマチ・膠原病センターは、主に関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者様を対象に診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈リウマチ疾患〉関節リウマチ

〈膠原病〉全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

〈膠原病類縁疾患〉ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾

患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断できなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。

関節リウマチを始めとする膠原病は一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので現時点だけでなく長期的な視野に立って治療を考える必要があり、患者様自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者様自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。したがって、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ（看護師・理学療法士・薬剤師・栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など）と協力して、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援（特定疾患・身体障害者・介護保険などの申請など）を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物

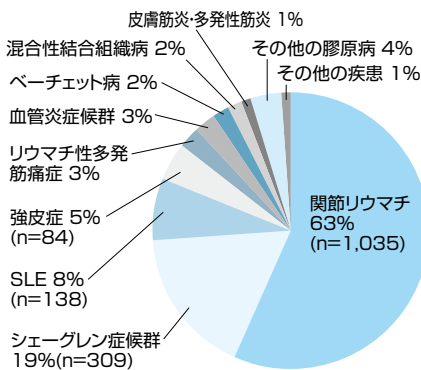
学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいえない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思えます。

■ 診断内訳

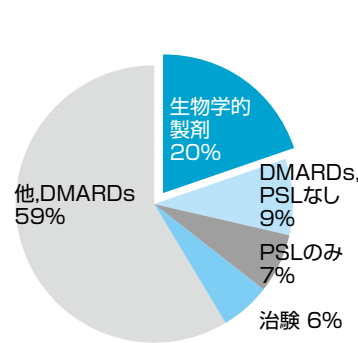
リウマチ・膠原病センターは毎月およそ1,600名のリウマチ・膠原病の患者様を専門外来で診療しています。新患は年間 500名以上で、佐世保市、長崎県北部のみならず、島原など県南部からも紹介を受けています。最近、関節リウマチ(RA)の診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者様の紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、RAの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、生物学的製剤を全RA患者様の約20%に使用しています。遠方からたくさんの患者様が当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワークを作り、リウマチの地域連携をすすめています。

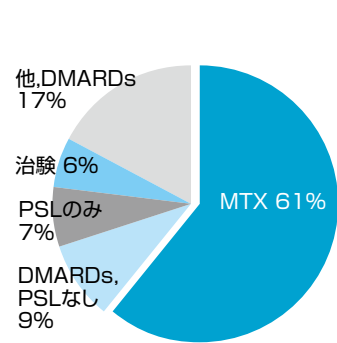
■ 診断内訳 2012年1月統計(n=1,643)



■ 生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,035人)



■ MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,035人)



認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of artificial dialysis Center

人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



病院長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員、日本透析医学会専門医・指導医、日本アフェシス学会認定専門医、九州リウマチ学会評議員



診療部長
浪江 智
(なみえ さとる)

長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本透析医学会専門医



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
日本内科学会認定内科医、日本内科学会認定総合内科専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本透析医学会専門医

診療内容

人工透析センターは腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者様を主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈腎臓疾患〉ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など

〈自己免疫疾患〉関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

診療実績

人工透析センターでは、常時75人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2010年度に全国で維持透析導入された患者数は37,500人を超え、また維持透析患者数も297,000人を超えました。導入された患者様の原疾患の第1位は糖尿病性腎症で43.5%ですが、当院は県内最大規模の糖尿病センターを有しており、糖尿病性腎症が原因の維持透析導入患者様は、50%と全国平均より高い割合となっています。また、当院において糖尿病性腎症で維持透析導入となった患者様のうち、63.6%が内シャントから透析導入しています。糖尿病センターと人工透析センターが早期に連携を図り、透析導入準備を適切な時期に行うことにより、患者様の身体的、精神的な負担の軽減に役立っていると考えられます。

また、導入時平均年齢は男性が66.9歳、女性は69.5歳、全体の平均年齢は67.8歳、当院においても男性67.2歳、女性70.4歳、全体では68.8歳と導入患者様の高齢化が進んでいます。また、20年以上透析患者数は全国で21,411人と、前年度と比べ944人増加し、全透析患者の中の7.5%を占め、長期透析患者様の増加傾向が明らかとなっています。

透析患者様の高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者様特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者様が増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりました。人工透析センターは、さまざまな科を有する総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者様を

受け入れています。脳血管障害や心血管障害、術後などでCHDFを施行した回数は2010年度31回、2011年度139回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした

血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行も、それぞれ63回、132回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

■主な診療実績

・維持透析患者数 75人
2012年3月31日現在

・維持透析導入患者

(急性腎不全、術後一時的導入を除く)

2010年度 16人

2011年度 20人

・特殊血液浄化療法施行回数(延べ)

	2010年度	2011年度
LCAP	50	108
GCAP	0	7
血漿交換	13	17
エンドトキシン吸着	14	15
CHDF	31	139

認定施設

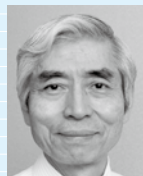
日本透析医学会認定施設

Medical Center of Cognitive Disorders

認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



認知症疾患医療センター長

井手 芳彦

(いで よしこ)

長崎大学 昭和46年卒
日本神経学会認定専門医
日本内科学認定内科医

診療内容

認知症医療疾患センターは長寿国である我が国において増え続ける認知症患者様に対応して、認知症の早期発見、早期治療、適切な在宅介護をスローガンに、厚生労働省が全国の認知症専門の医療機関に呼びかけて「認知症疾患医療センター」の設立を進めてきました。当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。県下では2番目の認可でした。

当センターは、認知症専門医は1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当の作業療法士(OT)1名、専任診療アシスタント1名、医療秘書1名の総勢6名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断をくだし、治療方針を立て、これらを地域の紹介医師(かかりつけ医)に報告し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスをしています。

簡単な高次脳機能検査で直ちにわかる認知症と、正常加齢か認知症初期かが判然としない患者さんまで幅広く診ます。通常の診療では、各患者さんと家族から詳細な問診を行い、ご本人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを行います。場合によっては、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラムまで行います。

軽いもの忘れが年齢相当かどうかの判断に時間がかかっても大きな影響はないのですが、周辺症状または行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、迅速な対応(薬物治療や連携精神科病院への紹介)と介護へのアドバイスをを行い、介護者の肉体的・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

昨年(2011年)春には認知症の新薬が3種類登場しました。これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬剤について、市内の認知症診療医師と共同して新薬の適応や使い分けの臨床研究を現在行っています。

診療実績

初診のための相談を昨年1年間で約530件、定期受診その他を合わせると年間630件の相談を、ご家族から直接あるいは医療機関経由で受けました。2011年7月に開催された全国の認知症疾患医療センター協議会の集計では、114病院の中で当センターの相談件数は全国20位、新患者数は16位でしたので、当センターも

頑張っているほうだと自負しています。受診希望者が多いのはいいのですが、予約から初診までの平均待ち期間が約2ヶ月と長いのが悩みの種です。

毎日午前4時間、あるいは午後3時間半を外来診療に当てています。月平均30名の新規患者様を診ています。鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の



境界(MCI)が15%、アルツハイマー型認知症(AD)が約50%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が17%、前頭側頭葉型変性症(FTLD)が8%です。純粋な血管性認知症は2%以下です。なかでもDLBとFTLDがじわじわ増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧されますし、運動障害が加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護が大変です。FTLDはBPSDが最も出やすいタイプで、介護面で大きなエネルギーを要します。

確定診断のついた患者様のご家族を対象に、佐世保中央病院講義室で「認知症健康教室:メモリー・クラス※」を月一回おこなっています。2時間半ほどを使って、認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して講義し、最後に実際の認知症介護経験者による介護体験記を聴いてもらいます。ご家族には好評で多くの質問が出ます。

※詳しい内容はP184をご覧ください。

Dept.of Gastroenterological Endoscopy

消化器内視鏡センター

癌の早期発見・早期治療に威力を発揮

診療担当医 ※2012年3月末日現在



副院長兼
消化器内視鏡センター長
木下 昇
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和57年卒 医学博士
日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医、九州支部評議員、日本肝臓学会、日本肝癌研究会、日本感染症学会ICD(インフェクションコントロールドクター)



診療部長
小田 英俊
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒 医学博士
日本内科学会認定医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本消化器内視鏡学会専門医



医長
楠本 浩一郎
(くすもと こういちろう)
2012年5月退職

佐賀医科大学 平成11年卒 医学博士
日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会
日本肝臓学会、長崎消化器内視鏡治療研究会世話人



医長
松崎 寿久
(まつざき としひさ)
2012年4月就勤

長崎大学 平成14年卒
日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医



医員
妹尾 建正
(せのお たけまさ)
2012年3月退職

長崎大学 平成17年卒
日本内科学会認定内科医



医員
山島 美緒
(やましま みお)
2012年3月退職

長崎大学 平成18年卒
日本内科学会認定内科医



医員
山道 忍
(やまみち しのぶ)
2012年4月就勤

長崎大学 平成18年卒



医員
大石 敬之
(おおいし たかゆき)
2012年6月就勤

愛知医科大学 平成21年卒

診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さまのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。

主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道癌および早期胃癌に対するESD
(内視鏡的粘膜下層剥離術)
- ・大腸ポリープ、早期大腸癌に対するESDおよびEMR(内視鏡的ポリープ切除術)

- ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術胃瘻造設術
- ・異物除去
- ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
- ・内視鏡的総胆管結石除去術

肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンを中心とした治療肝細胞癌に対する超音波下、腹腔鏡下エタノール局注療法及びラジオ波焼灼療法を行っています。

診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間4,533件(2011年度実績)実施し、うち487件に前述したような内視鏡的治療を行っています。大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,019件(2011年度実績)実施し、うち約217件に前述したような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して昼夜を問わず消化管出血などの患者様が

搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃癌や大腸癌は、早期癌の段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められたりした方は、躊躇されることなくできるだけ早うちに当科を受診されることをおすすめします。

■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	4,533件	内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	153件
下部消化管内視鏡検査	1,019件	超音波内視鏡検査(EUS)	6件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	66件	内視鏡的異物除去術	7件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	28件	肝生検	18件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	8件	ソナゾイド造影エコー	34件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	189件	エタノール局注療法(PEIT)	23件
内視鏡的止血術	156件	ラジオ波焼灼療法(RFA)	
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	22件	胆道ドレナージ(PTCD)・内瘻化	35件
内視鏡的拡張術	56件	インターフェロン治療導入	32件
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	19件	B型肝炎核酸アナログ導入	50件

認定施設

日本消化器内視鏡学会指導施設

日本消化器病学会認定施設

Health Care Center

健康増進センター

癌や生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

■診療担当医 ※2012年3月末日現在



センター長
中尾 治彦
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒
人間ドック認定医、消化器病専門医、外科専門医



特別顧問
石丸 忠之
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒
長崎大学名誉教授
産婦人科専門医、日本医師会認定産業医



副部長
寺園 敏昭
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長
尾崎 美砂
(おざき みさ)
2012年6月退職

産業医科大学 平成13年卒
産業医科大学産業医学ディプロマ



医師
*神経内科(診療部長)と兼任
竹尾 剛
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒
日本神経学会認定専門医 指導医
日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医

非常勤
松永 陽一
(まつなが よういち)

日本体育協会スポーツドクター
日本医師会認定産業医
日本医師会認定健康スポーツ医

非常勤

野々下 晃子

(ののした あきこ)

産婦人科専門医

健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にこれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診等を除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担当

し、健診の質の確保を図っています。

中尾は消化器系、石丸は婦人科系、寺園は呼吸器科と内科一般、竹尾は脳ドック、松永は循環器内科と内科一般を担当しております。

2008年12月、運営の合理性などの第三者による客観的に評価する、人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することが出来ました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

基本理念・基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い検診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立
 2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称。
 新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る。
 2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

認定施設・指定

- ・人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.2)認定施設
- ・マンモグラフィ検診画像認定施設
- ・健康保険組合連合会指定健診施設
- ・全国健康保険協会管掌健診指定施設

健診実績

	2009年度	2010年度	2011年度
日 帰 り ド ッ ク	1,687	1,506	1,618
宿 泊 ド ッ ク	525	348	328
健診受診者総数	16,803	16,807	14,032

健診検査別実施数

検 査 名	実 施 数
胸 写	6,127
心 電 図	4,622
胃 内 視 鏡	2,501
腹 部 超 音 波	2,250
胃 透 視	1,301
肺 C T	601

検 査 名	実 施 数
便 潜 血	4,230
子 宮 頸 部	2,570
マンモグラフィ	2,244
乳 腺 超 音 波	367
脳 M R I	347
子 宮 体 部	187

学会発表実績

循環器内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2011年 8月31日	県北地区臨床検査研究会	不整脈に対する非薬物療法	中尾功二郎
2011年 12月3日	第111回日本循環器学会 九州地方会	痙攣発作で発症し、壁運動異常を伴わなかった 急性心筋炎の1症例	赤司 良平

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2011年 11月30日	第41回県北臨床循環器懇話会	完全房室ブロックで発症した急性心筋炎	赤司 良平
2011年 9月17日	第2回長崎心臓リハビリテーション 研修会	急性心不全の診断と対処法	木崎 嘉久
2012年 2月24日	学術講演会	不整脈に対する非薬物療法～当院での経験～	中尾功二郎

座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2011年 4月25日	第51回 県北ハートカンファランス			木崎 嘉久
2011年 6月22日	不整脈座談会	「致死性不整脈に対する静注用 抗不整脈薬の使い方-国循データ 2011update-」	国立循環器病研究センター 心臓血管内科不整脈部門 清水 渉先生	木崎 嘉久
2011年 7月11日	第52回 県北ハートカンファランス			木崎 嘉久
2011年 7月14日	県北臨床内科医会 学術講演会	「心・血管疾患治療における脂質管 理の将来展望」	熊本大学大学院 生命科学研究部 循環器病態学 杉山 正悟先生	木崎 嘉久
2011年 9月28日	第6回Heart Club	「不整脈に対する非薬物療法」	佐世保中央病院 循環器内科 中尾 功二郎	木崎 嘉久
2011年 10月3日	第53回県北 ハートカンファランス			木崎 嘉久
2011年 10月24日	ALCT Symposium	「当院でのクレストールの 使用経験」	えぐちステーションクリニック 江口 圭介先生	木崎 嘉久
2012年 2月6日	第54回県北 ハートカンファランス			木崎 嘉久
2012年 2月24日	学術講演会	「致死性不整脈の原因はどこまで わかったか」	長崎大学大学院医歯薬学総 合研究科 分子病態生理学 分野 蒔田 直昌	木崎 嘉久
2012年 3月3日	第14回長崎 ライブデモンストレーション			木崎 嘉久
2012年 3月23日	第285回県北臨床内科 医会学術講演会	「ARBの使い分け-アバプロ臨床 研究(CHAT-A)の結果を踏まえ て-」	福岡大学筑紫病院 循環器 内科 浦田 秀則	木崎 嘉久

論文

題 名	掲 載 誌	著 者
拡張型心筋症による重症心不全にCRT-D施行するも、効果不十分であった高齢患者に対する心臓リハビリテーションの経験	日本心臓リハビリテーション学会誌 心臓リハビリテーション(JJCR) 第17巻第1号 2012年2月15日	島崎 功一・河野 浩章 飯野 俊之・松瀬 瑞恵 本田 泰丈・木崎 嘉久
動悸を契機に発見された右室起源脂肪腫に対する1手術例	心臓 第44巻 第6号 (2012年6月15日発行)	橋本 亘・谷口真一郎 柴田隆一郎・木崎 嘉久 米満 伸久

世話人

世話人	会 の 名 称
木崎 嘉久	長崎県急性心筋梗塞委員会、東北臨床循環器懇話会、東北ハートカンファレンス、西海不整脈フォーラム、東北アンギオテンシン研究会、東北メタボリックシンドローム研究会

代表・主催

会 期	会 議 名
2011年4月25日	第51回東北ハートカンファレンス
2011年7月11日	第52回東北ハートカンファレンス
2011年10月3日	第53回東北ハートカンファレンス
2012年2月6日	第54回東北ハートカンファレンス
2012年3月24日	第5回長崎心臓リハビリテーション研究会世話人会

呼吸器内科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2011年 10月6~8日	第81回日本感染症西日本地方会 学術集会	結核性胸膜炎との鑑別が困難であった クリプトコッカス胸膜炎の1例	大島 一浩

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 1月20日	九州地区症例報告会	慢性肺アスペルギルス症を対象としたアムホテリシ ンBリポソーム製剤とポリコナゾールの比較試験	小林 奨

論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Synergistic antifungal effect of lactoferrin with azole antifungals against <i>Candida albicans</i> and a proposal for a new treatment method of invasive candidiasis.	Jpn J Infect Dis 2011;64(4):292-6.	Kobayashi T, Kakeya H, Miyazaki T, Izumikawa K, Yanagihara K, Ohono H, Yamamoto Y, Tashiro T, Kohono S

耳鼻咽喉科

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2011年 6月16日	佐世保市 第215回 佐世保耳鼻科会	甲状腺出血の1症例	大里 康雄

外 科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2011年 5月12～13日	第28回日本呼吸器外科学会総会	間質性肺炎に合併し気道散布性に広がった肺腺房型腺癌の一例	佐々木伸文
2011年 5月20～21日	第47回九州内分泌外科学会	甲状腺髄様癌の2例	佐々木伸文
2011年 5月20～21日	第48回九州外科学会	閉鎖孔ヘルニア手術例10例の検討	清水 輝久
2011年 5月27～28日	第15回日本救急医学会 九州地方会	救急外来を受診しCTで魚骨を指摘された2症例	久永 真
2011年 6月3～4日	第14回日本臨床救急医学会 総会・学術集会	S状結腸捻転症手術例13例の臨床的検討	清水 輝久
2011年 6月8～10日	第23回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会	胆嚢捻転症の臨床的検討	清水 輝久
2011年 6月8～10日	第23回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会	大腸癌肝転移に対して化学療法後に肝切除を行なった症例の検討	重政 有
2011年 6月8～10日	第23回日本肝胆膵外科学会・ 学術集会	胆道癌におけるHPD短期予後の検討	羽田野和彦
2011年 6月24～25日	第13回日本医療マネジメント 学会学術総会	当院乳癌手術クリティカルパスの変遷—DPC導入、電子パス、原価計算システム導入にて—	碓 秀樹
2011年 6月24～25日	第97回日本消化器病学会 九州支部例会	化学療法が著効している大腸癌の2症例	清水 輝久
2011年 6月24～25日	第97回日本消化器病学会 九州支部例会	長期生存している大腸粘液液癌腹膜播種再発切除の1例	重政 有
2011年 7月13～15日	第66回日本消化器外科学会総会	大腸後腹膜穿孔症例7例の検討	清水 輝久
2011年 7月13～15日	第66回日本消化器外科学会総会	大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討	重政 有
2011年 7月13～15日	第66回日本消化器外科学会総会	新胃癌取り扱い規約におけるN3症例の検討	梶原 啓司
2011年 8月11～12日	第47回日本腹部救急医学会総会	搬入時の病態別にみた腹部刺創6例の検討	清水 輝久
2011年 9月2～4日	第19回日本乳癌学会学術総会	インプラントを用いた一期的乳房再建の9例	碓 秀樹
2011年 9月16～17日	第47回日本胆道学会学術集会	術前に肝内胆管右主枝が胆嚢管より分岐を認めた胆石症の1例	清水 輝久
2011年 10月8日	第27回長崎肝・胆道・膵外科 研究会	多発性骨転移で発症した膵原発小細胞癌の1例	重政 有
2011年 10月18～20日	第39回日本救急医学会総会・ 学術集会	非外傷性大腸良性疾患による穿孔の検討	清水 輝久

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2011年 10月20~23日	第53回日本消化器病学会大会	大腸粘液癌の臨床病理学的検討	重政 有
2011年 10月27~29日	第49回日本癌治療学会学術集会	長期生存している腹膜播種を伴った大腸粘液癌の 一切除術	重政 有
2011年 11月5日	第36回日本大腸肛門病学会 九州地方会	原発性回盲部粘液癌(StageIV)長期生存例の1例	清水 輝久
2011年 11月5日	第36回日本大腸肛門病学会 九州地方会	大腸粘液癌15症例の臨床病理学的検討	重政 有
2011年 11月17~19日	第73回日本臨床外科学会総会	尿管膿瘍6例の臨床的検討	清水 輝久
2011年 11月17~19日	第73回日本臨床外科学会総会	CA19-9産生胃癌の一例	草場 隆史
2011年 11月17~19日	第73回日本臨床外科学会総会	当科における大腸低分化腺癌の臨床病理学的検討	重政 有
2011年 11月17~19日	第73回日本臨床外科学会総会	Composix Kugel Patchを用いた 腹壁癒着ヘルニア修復術	久永 真
2011年 11月25~26日	第66回日本大腸肛門病学会 学術集会	腸管膀胱瘻の検討	清水 輝久
2011年 11月25~26日	第66回日本大腸肛門病学会 学術集会	大腸粘液癌の臨床病理学的および治療成績の検討	重政 有
2011年 12月1~2日	第24回日本外科感染症学会総会	急性虫垂炎術後、緊急手術を要した縫合糸膿瘍の 2例	清水 輝久
2012年 2月10~11日	第8回日本消化管学会総会 学術集会	上部消化管穿孔の病態と治療	清水 輝久
2012年 3月3~4日	第9回日本乳癌学会九州地方会	乳腺線維腺腫に合併したDCISの一例	佐々木伸文
2012年 3月14~15日	第48回日本腹部救急医学会総会	大腸後腹膜・腸間膜穿孔症例の検討	清水 輝久

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 3月7日	中外製薬株式会社勉強会	進行・再発大腸癌の治療戦略	重政 有

脳神経外科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2011年 7月30日	第40回日本脳卒中の外科学会	C5/6レベル椎骨動脈圧迫症候群の治療成績	平田 陽子
2011年 7月30日	第40回日本脳卒中の外科学会	くも膜下出血で発症したM1部解離性 中大脳動脈瘤の一例	衛藤 達
2011年 8月27日	第30回The Mt.Fuji Workshop on CVD	C5/6レベル椎骨動脈圧迫症候群の治療成績	平田 陽子
2011年 9月17日	第109回日本脳神経外科学会 九州支部会	硬膜外浸潤を伴った大孔部髄膜腫の一例	衛藤 達

座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2011年 5月28日	第15回日本救急医学会 九州地方会	セッション脳外科②		阪元政三郎
2011年 6月16日	久留米大学・福岡大学医学 部同窓会 合同学術講演会	「CEA・CAS治療の進歩」～頸部内 頸動脈狭窄700例の経験から～	福岡大学医学部脳神経外科 教授 井上 亨先生	阪元政三郎

論文

題名	掲載誌	著者
母血管温存を考慮して治療を行った 高齢者未破裂嚢状椎骨動脈瘤の1例	NEUROLOGICAL SURGERY 脳外科 39(9):891-895,2011	衛藤 達・安部 洋 竹本光一郎・大川 将和 岩朝 光利・東 登志夫 阪元政三郎・松本 直樹 井上 亨
Pharmacokinetics and protein binding of linezolid in cerebrospinal fluid and serum in a case of post- neurosurgical bacterial meningitis	Scandinavian Journal of Infections Diseases, ;43:982-985	Yasuhiro Tsugi, Yoichi Hiraki, Kana Matsumoto, Akiko Mizoguchi, Shinichi Sadoh, Tsutomu Kobayashi, Yusuke Takemura, Seisaburo Sakamoto, etc

心臓血管外科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2011年 5月26日～29日	第19回 アジア心臓血管外科 学会	Perioperative Management of Open Heart Surgery by Heart Rate Reduction	橋本 亘
2011年 10月20～22日	第52回日本脈管学会総会	急性大動脈解離と類似した症状を呈した特発性脊 髄硬膜外血腫の一例	橋本 亘
2011年 12月3日	第111回日本循環器学会 九州地方会	動悸を契機に発見された右室起源脂肪腫に対する 1手術例	橋本 亘
2012年 2月16～18日	第26回心臓血管外科 ウィンターセミナー	Landiolol for the prevention of perioperative atrial fibrillation and heart rates after cardiac surgery	橋本 亘

小児科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2011年 4月10日	第183回 日本小児科学会長崎地方会	肥満小児の受診傾向とその転帰に関する検討	山田 克彦
2011年 4月10日	第183回 日本小児科学会長崎地方会	夜尿、昼間遺尿および難治性便秘を認めた 広汎性発達障害の3男児例	犬塚 幹
2011年 11月17日	第32回長崎てんかん研究会	当科における新規抗てんかん薬の治療成績	犬塚 幹
2011年 12月4日	第185回 日本小児科学会長崎地方会	MCT8欠損症と思われる8歳男児例	犬塚 幹

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2011年 6月30日	崎辺中学校 学校保健委員会	被災地医療支援の話	犬塚 幹

皮膚科**講演会・セミナー**

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2011年 9月7日	佐世保地区皮膚科懇話会	佐世保中央病院 皮膚科 紹介症例について	山口 宣久
2012年 2月9日	佐世保地区皮膚科懇話会	佐世保中央病院 皮膚科 紹介症例について	山口 宣久

放射線科**学会・研究会**

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2011年 7月9日	第24回九州・山口地区 ハイパーサーミア研究会	切除不能膀胱癌に対する温熱化学放射線療法の 有用性	平尾 幸一
2011年 7月9日	第34回長崎県北消化器癌研究会	Gd-EOB-DTPA を取り込んだ肝細胞癌の一例	堀上 謙作
2011年 9月9～10日	日本ハイパーサーミア学会 第28回大会	温熱化学療法が有効であった乳房温存療法後に 発生した血管肉腫の1例	平尾 幸一

糖尿病センター**学会・研究会**

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2011年 5月19日～21日	第54回日本糖尿病学会 年次学術集会	患者のモチベーションがコントロールの変化に及ぼ す影響 “重要度と自信度を中心に”	松本 一成
2011年 5月19日～21日	第54回日本糖尿病学会 年次学術集会	単剤または多剤併用におけるシタグリプチンの効果 の検討	藤島圭一郎
2011年 5月19日～21日	第54回日本糖尿病学会 年次学術集会	腎症ステージCKDと頸動脈硬化との関連	原口 愛
2011年 6月24～25日	第13回日本医療マネジメント 学会学術総会	当院における糖尿病腎症パスの現状	藤島圭一郎
2011年 8月27～28日	第6回臨床コーチング研究会 2011	糖尿病診療に従事する医療者に対するコーチング セミナーの反響-アンケート結果の集計-	松本 一成
2011年 10月14～15日	第49回日本糖尿病学会 九州地方会	外来インスリン導入の際に、注射回数は何回が 妥当であるか?	松本 一成
2011年 10月14～15日	第49回日本糖尿病学会 九州地方会	単剤または併用薬の組み合わせにおける シタグリプチンの効果の検討	藤島圭一郎
2011年 10月14～15日	第49回日本糖尿病学会 九州地方会	当院で施行した持続血糖モニター(CGMS)の 結果検討	原口 愛
2011年 10月29日	第8回九州先進糖尿病研究会	糖尿病患者における心血管イベントの 予知マーカーに関する研究-接着因子、炎症、 インスリン抵抗性を中心に-	松本 一成

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2011年 6月3日	糖尿病コーチングセミナーin島根	患者さんのやる気を引き出す実用的な手法 ～コーチング～	松本 一成
2011年 6月11日	第2回西尾張糖尿病看護トレーニングセミナー	行動変容を促す実用的なコミュニケーションスキル ～糖尿病コーチングの使い方～	松本 一成
2011年 7月16日	あの人にはこう勤める! ～タイプ別SMBG指導法～	あの人にはこう勤める!～タイプ別SMBG指導法～	松本 一成
2011年 7月23日	ADES第7回ステップアップ 研修会	患者さんの取り組みが変わるコミュニケーション法	松本 一成
2011年 9月1日	日本イーライリリー主催講演会 「Diabetes Face to Face」	患者さんの行動が変わるコミュニケーション法 ～糖尿病コーチングの基本スキル～	松本 一成
2011年 9月9日	ビクトーザ 症例検討会(第1報)	患者さんへのインフォームドコンセントと使用成績	松本 一成
2011年 9月10日	第2回糖尿病患者教育 スキルアップセミナー	「応答の仕方ですトーリーが変わる」 「患者のタイプ別コーチング」	松本 一成
2011年 10月1日	ジョンソンエンドジョンソン主催 講演会「糖尿病患者さんとの応答 の仕方」	糖尿病患者さんとの応答の仕方～動機付け面接法 によりSMBGを勤めてみる～	松本 一成
2011年 10月2日	ADES第8回ステップアップ 研修会	適切な問診の仕方と応答の仕方	松本 一成
2011年 11月5日	臨床コーチング研究会スキルアッ プセミナー2011 in KYOTO	「コミュニケーション基本理論」 「メディカルサポートコーチング 基本スキル」	松本 一成
2011年 11月12日	信州大学医学部附属病院糖尿病 週間&世界糖尿病デー 記念講演会	糖尿病におけるコーチングの基本スキル	松本 一成
2011年 11月17日	大分糖尿病学術講演会	注射による治療法の有用性ーインスリンと インクレチンー	松本 一成
2011年 11月19日	糖尿病スキルアップセミナー	「やる気を引き出す応答とは?」 「患者のタイプ別コーチング」	松本 一成
2012年 2月4～5日	第41回新潟糖尿病談話会	患者さんの取り組みが変わるコミュニケーション法 ー糖尿病コーチングの基本スキルー	松本 一成
2012年 2月7日	ノボ ノルティスク ファーマ(株)社 内臨床講座	インクレチン製剤と低血糖	藤島圭一郎
2012年 2月10～11日	鹿児島医療センターコーチング スキル研修会	患者さんの取り組みが変わるコミュニケーション法 ーコーチングの基本スキルー	松本 一成
2012年 2月10～11日	鹿児島医療センターコーチング スキル研修会	糖尿病コーチングの応用ー患者のタイプ別 コーチングー	松本 一成
2012年 2月10～11日	鹿児島医療センターコーチング スキル研修会	糖尿病患者さんの動機を引き出す対話 ー動機づけ面接法ー	松本 一成
2012年 3月13日	第23回糖尿病診療を考える会	「低血糖」ー動行・原因薬物・対策ー	藤島圭一郎
2012年 3月17日	ジョンソン・エンド・ジョンソン主催 「患者さんの行動が変わるSMB G利用法!!」	患者さんの行動が変わるSMBG利用法!!	松本 一成

リウマチ・膠原病センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2011年 5月13日	第12回長崎インフリキシマブ研究会	「当病院におけるレミケードの長期使用成績」	植木 幸孝
2011年 7月5日	第3回筑後地区アクテムラ適正使用研究会	「当院におけるトシリズムマブの使用経験と長崎県北リウマチネットワークの取り組み」	植木 幸孝
2011年 7月7日	第1回県北自己免疫疾患研究会	「RA治療の歴史」	植木 幸孝
2011年 7月17～20日	第55回日本リウマチ学会総会	「関節リウマチに対する生物学的製剤使用時の効果、副作用発現時におけるPTX-3の意義」	植木 幸孝
2011年 9月10～11日	第42回九州リウマチ学会	「アバタセプト投与後に劇症肝炎を発症した関節リウマチの一例」	岩永 希
2011年 9月10～11日	第42回九州リウマチ学会	「ステロイド性骨粗鬆症に関連した実態調査及び治療までのフローチャート作成」	菅沼 徳恵
2011年 9月10～11日	第42回九州リウマチ学会	「トシリズムマブ治療計画表の見直しと患者指導の評価」	松瀬 敦子
2011年 9月10～11日	第42回九州リウマチ学会	「隠れシェーグレン症候群の実態調査と治療の取り組み(第2報)」	植木友里子
2011年 10月6日	続発性骨粗鬆症治療研究会	「当院におけるステロイド性骨粗鬆症に対する治療」	植木 幸孝
2011年 10月14日	第20回県北リウマチ研究会	「レミケード増量および短縮投与による使用成績」	植木 幸孝
2011年 11月29日	第2回県北自己免疫研究会	「RAの鑑別診断とリウマトレックス」	植木 幸孝
2011年 12月3～4日	第26回日本臨床リウマチ学会	「長崎県北リウマチネットワークの現状(パスから管理ノートへ)」	植木 幸孝
2011年 12月14日	宮崎膠原病リウマチ治療研究会	「地域が目指す新しいリウマチ治療戦略～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～」	植木 幸孝
2012年 3月10～11日	第43回九州リウマチ学会	「関節リウマチに対しエタネルセプトで加療中に急速に多発空洞陰影を呈した肺非結核性抗酸菌症(NTM)の一例」	岩永 希

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2011年 6月6日	キッセイ薬品勉強会	「当院におけるシェーグレン症候群治療の実際」	植木 幸孝
2011年 6月9日	RA連携会	「RAのT2T治療戦略」	植木 幸孝
2011年 6月13日	ファイザー社内勉強会	「関節リウマチにおける治療戦略のパラダイムシフト」	植木 幸孝
2011年 6月20日	NSAIDs潰瘍から胃を守る会	「リウマチ・膠原病疾患におけるNSAID潰瘍の検討」	植木 幸孝
2011年 7月6日	支払基金勉強会	「関節リウマチの基礎知識」	植木 幸孝
2011年 7月9日	第9回リウマチ市民公開講座	「リウマチ地域連携」	植木 幸孝
2011年 7月17～20日	第55回日本リウマチ学会総会	「関節リウマチに対する生物学的製剤使用時の効果、副作用発現時におけるPTX-3の意義」	植木 幸孝
2011年 7月28日	第33回県北膠原病勉強会	「リウマチ・膠原病疾患における高血圧の治療」	植木 幸孝

2011年 8月12日	札幌リウマチケアミーティング	「長崎県における関節リウマチのトータルケア」	植木 幸孝
2011年 8月26日	レミケードセミナー	「レミケード治療の経験から学んだこと」	菅沼 徳恵
2011年 9月8日	肺高血圧症エキスパートミーティング	「膠原病性肺高血圧について」	植木 幸孝
2011年 9月12日	アクテムラ3周年学術講演会	「病診連携を見据えたアクテムラ投与を目指して～病診連携の観点から～」	植木 幸孝
2011年 9月22日	県北リウマトレックスフォーラム	「RAのT2T治療戦略」	植木 幸孝
2011年 9月25日	アクテムラ3周年記念講演会	「医療連携の観点から」	植木 幸孝
2011年 9月26日	アドバイザーミーティング	「ボネオオマンスリー(50mg製剤)に関する最新の知見」	植木 幸孝
2011年 10月7日	佐世保整形外科医会(骨粗鬆症フォーラム)	「当院におけるステロイド性骨粗鬆症に対する治療」	植木 幸孝
2011年 10月15日	ベーチェット病友の会長崎県支部講演・相談会・交流会	「腸管ベーチェット病の最新薬と治療法」	寺田 馨
2011年 10月28日	佐世保リウマチ治療Seminar	「当院でのアバタセプト使用成績」	植木 幸孝
2011年 10月31日	肺高血圧エキスパートミーティング	「肺高血圧症治療におけるヴォリプリスの位置づけ」	植木 幸孝
2011年 11月10日	関節リウマチ地域連携学術講演会	「リウマチ患者のプライマリケアと専門医との連携について」	植木 幸孝
2011年 11月17日	新居浜リウマチ連携ミーティング	「地域が目指す新しいリウマチ治療戦略～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～」	植木 幸孝
2011年 11月25日	第7回高知県リウマチエキスパートミーティング	「長崎県北リウマチネットワークの現状と課題～トシリズマブによるより良き連携を目指して～」	植木 幸孝
2012年 1月25日	第2回防府地区リウマチ懇話会	「長崎県北リウマチネットワークの現状と課題～トシリズマブ(アクテムラ)によるより良き連携を目指して～」	植木 幸孝
2012年 2月9日	循環型地域連携講演会	「最近の関節リウマチ治療戦略—当院症例報告—」	植木 幸孝
2012年 2月16日	Biologics User's Forum on RA in 大分	「関節リウマチ最新治療～当院におけるBIO製剤の使い分け～」	植木 幸孝
2012年 2月24日	Biologics Conference in Kyoto	「地域が目指す新しいリウマチ治療戦略～長崎県北リウマチネットワークの取り組み～」	植木 幸孝
2012年 3月1日	循環型地域連携講演会	「最近の関節リウマチ治療戦略—当院症例報告—」	植木 幸孝

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2011年 5月31日	第7回トシリズマブ適正使用研究会	「トシリズマブを用いた最新の関節リウマチ治療-より高い寛解導入をめざして-」	慶應義塾大学 医学部内科学講座リウマチ内科 教授 竹内 勤先生	植木 幸孝
2011年 6月30日	県北リウマチネットワーク研究会	「関節リウマチ診療における医療連携—整形外科医の視点から—」	増田整形外科医院 院長 増田 良孝先生	植木 幸孝
2011年 7月7日	第1回県北自己免疫疾患フォーラム	「症例検討会」	植木 幸孝	
2011年 8月19日	長崎オレンシア適正使用セミナー	「関節リウマチの新しい治療戦略」	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科医療科学 専攻展開医療科学講座 教授 川上 純先生	植木 幸孝

2011年 10月13日	佐世保Goal研究会	「T2T Initiativeの背景と日本における展開に向けて」	九州医療センター 膠原病内科 医長 末松 栄一先生	植木 幸孝
2011年 11月22日	第8回トシズマブ適正使用研究会	「長崎県における関節リウマチ疾患に対するトシズマブの使用状況」	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座 川尻 真也先生	植木 幸孝
2011年 10月21日	長崎県ヒュミラ適正使用研究会	「関節リウマチにおける超音波エコーの診断に対する有用性」 「関節リウマチにおける目標達成に向けた治療 Treat To Target:リコメンデーション患者版」	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科医療科学専攻展開医療科学講座 川尻 真也先生 久留米大学病院 呼吸器・神経・膠原病内科部門 井田 弘明先生	植木 幸孝
2011年 11月23日	日本健康・栄養システム学会第10回九州地方会 長崎大会in佐世保	「笑いのすすめ」 ～健康増進を目指す爆笑計～ 《食欲・口腔機能回復と笑いの解明》	大阪電気通信大学 医療福祉工学部 教授 松村 雅史先生	植木 幸孝
2011年 11月27日	平成23年度九州地区リウマチの治療とケア研修会	「関節リウマチのリハビリテーション」	大阪医科大学 リハビリテーション医学教室 教授 佐浦 隆一先生	植木 幸孝
2011年 12月9日	第34回県北膠原病研究会	「膠原病と感染症」	宮崎大学病院 免疫感染病態学分野 教授 岡山 昭彦先生	植木 幸孝

論文

題 名	掲 載 誌	著 者
Selective chemiluminescence method for monitoring of vitamin K homologues in rheumatoid arthritis patients	Talanta 85(2011)230-236	Sameh Ahmed, Naoya Kishikawa, Kaname Ohyama, Takahiro Imazato, Yukitaka Ueki, Naotaka Kuroda
Immune Complexome Analysis of Serum and Its Application in Screening for Immune Complex Antigens in Rheumatoid Arthritis	Clinical Chemistry 57:6 905-909(2011)	Kaname Ohyama, Yukitaka Ueki, Atsushi Kawakami, Naoya kishikawa, Mami Tamai, Makoto Osaki, Shimeru Kamihira, Kenichiro Nakashima, and Naotaka Kuroda
Soluble urokinase plasminogen activator receptor as a useful biomarker to predict the response to adalimumab in patients with rheumatoid arthritis of Japanese population	Clinical and Experimental Rheumatology 2011;29:000-000.	T.Koga, A.Okada, S.Kawashiri, J.Kita, T.Suzuki, Y.Nakashima, M.Tamai, K.Satoh, T.Origuchi, N.Iwamoto, S.Yamasaki, H.Nakamura, K.Migita, H.Iida, Y.Ueki, K.Eguchi, A.Kawakami

Reduction in serum levels of substance P in patients with rheumatoid arthritis by etanercept, a tumor necrosis factor inhibitor	Mod Rheumatol(2011) 21:244-250	Tomoki Origuchi, Naoki Iwamoto, Shin-ya Kawashiri, Keita Fujikawa, Toshiyuki Aramaki, Mami Tamai, Kazuhiko Arima, Hideki Nakamura, Satoshi Yamasaki, Hiroaki Ida, Atsushi Kawakami, Yukitaka Ueki, Naoki Matsuoka, Munetoshi Nakashima, Akinari Mizokami, Yojiro Kawabe, Masanobu Mine, Takaaki Fukuda, Katsumi Eguchi
Primary lack of efficacy of infliximab therapy for rheumatoid arthritis: pharmacokinetic characterization and assessment, of switching to tocilizumab	Mod Rheumatol(2011) 21:628-636	Shunsuke Mori, Yukitaka Ueki

認知症疾患医療センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2011年 9月9～11日	第1回日本認知症予防学会 学術集会	長崎県北地域における認知症疾患医療センターの 現状と課題	井手 芳彦

消化器内視鏡センター

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2011年 6月24～25日	第97回日本消化器病学会 九州支部例会	Helicobacter Pylori除菌により著明な治療効果 が得られたCap Polyposisの一例	妹尾 健正
2011年 7月28～29日	第47回日本肝癌研究会	原発性胆汁性肝硬変に発生した肉腫様変化を伴う 肝細胞癌の1剖検例	木下 昇
2011年 11月18～19日	第98回日本消化器病学会 九州支部例会	内視鏡的逆行性胆嚢ドレナージ(ERGBD)により 良好な治療効果が得られたMRSA胆嚢炎の一例	妹尾 健正
2011年 11月18～19日	第98回日本消化器病学会 九州支部例会	関節リウマチに対する生物学的製剤投与により de novo B型肝炎を発症した一例	山島 美緒

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2012年 2月29日	「肝臓病疾患の栄養治療」 意見交換会	BCAA製剤の早期投与と肝癌抑制	木下 昇
2011年 6月30日	西海市医師会 B型肝炎のお話		木下 昇
2011年 7月28～29日	第47回日本肝癌研究会	原発性胆汁性肝硬変に発生した肉腫様変化を伴う 肝細胞癌の1剖検例	木下 昇
2011年 8月24日	佐世保市早岐地区別総会 B型肝炎のお話		木下 昇
2011年 10月20日	佐世保市医師会 B型肝炎のお話		木下 昇

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2011年 11月18日	第98回日本消化器病学会九州支部例会/ 第92回日本消化器内視鏡学会九州支部例会			小田 英俊

健康増進センター**学会・研究会**

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2012年 1月22日	第33回日本エンドメトリオーシス 学会講演	逆流月経血中のHGFと内膜症の関係	石丸 忠之
2012年 2月12日	第13回九州予防医学研究会 学術大会	開かれた予防医学を目指して	中尾 治彦

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2011年 5月18日	白寿会白寿荘講演会	更年期婦人の体の変化～更年期障害を中心に～	石丸 忠之
2011年 6月3日	佐世保南ロータリー講演会	性交渉で発生する子宮頸がんの撲滅を目指して	石丸 忠之
2011年 10月16日	長崎県産業医講習会	子宮頸がん～ウイルス感染とワクチン接種～	石丸 忠之
2012年 3月22日	介護老人保健施設長寿苑講演会	子宮頸がん～ウイルス感染とワクチン接種～	石丸 忠之



2
診
療
科